

## 第 8 回大田市学校のあり方に関する計画等検討委員会 会議録

日 時	令和 6 年 5 月 3 0 日 (木) 14:00 ~ 16:15		
場 所	大田市役所 4 階大講堂		
出席者	委 員：16 名 / 17 名 (欠席委員：阿部志朗委員) 事務局：武田教育長、森教育部長、縄総務課長、湊橋総務課長補佐、 清水学校施設係長、井上学校再編係主任、多田学校施設係主事、 俵学校教育課長、山根学事・魅力化推進室長、藤原山村留学センター長		
傍聴人	26 名	報道機関	3 社
次 第	別紙のとおり		
概 要	以下のとおり		
附 記	本委員会は原則公開		
<p>1. 開会 (進行：湊橋課長補佐)</p> <p>委員の半数以上の出席 (1 名欠席) を確認後、本委員会の成立を報告            (検討委員会設置要綱第 6 条第 2 項による)</p> <p>2. 加藤委員長挨拶</p> <p>本日は前回議論いただいた「高山小学校・大森小学校について」、「第一中学校及び第一中学校校区の小学校について」、「第二中学校及び第二中学校校区の小学校について」の 3 点について具体的な方向性を考えていきたい。併せて、「温泉津地区及び仁摩地区の小中学校について」新たに議論を進めていきたいと考えている。</p> <p>限られた時間になるが、進行にご協力いただくようお願いしたい。</p> <p>3. 第 7 回会議の議事録の確認 (進行：加藤委員長)</p> <p>指摘なし</p> <p>4. 議事</p> <p>(1) 高山小学校・大森小学校について (説明：縄課長)</p>			
議事に係る質疑応答			
発言者	内 容		
委員	大森小学校の校舎・敷地の安全面について、校舎裏の急斜面に大きな石があり、落石の危険性があるため校舎の裏に擁壁を作るという話を聞いたが、実施はされたのか。		
縄課長	校舎裏の落石対策については、昨年度・一昨年度に実施しており完了している。ただ、校庭部分は普段は人がいる場所ではないため落石対策は実施されていない。		
委員	<p>追加資料で生徒数に対して必要な面積や管理している施設の規模について把握ができた。現時点でも児童数からみた必要面積が全体の 4 割程度で、これから児童数は減っていく中で大森小学校・高山小学校をどのような規模で、どのような教育環境として整備していくのか、そういった視点で見えていかないといけないと思う。第三中学校の校舎を使うのもよいが、将来的には規模面積が過剰になり、それを維持する必要が出てくる。</p> <p>昨年から委員会に出席しているが、話を聞いていると長寿命化など維持管理ができていない状況であり、ほとんどの施設が 30 年経って老朽化・劣化が激しく安全ではない状況と感じている。</p> <p>これからどういう環境で子どもたちを教育し、既存の施設をどう活用するか。例えば、</p>		

	<p>新しい学びを提供できるよう大森小学校を段階的に適切規模かつ、機能を持たせたものに新築していくような考え方もあるのではないかと。</p> <p>追加資料で具体的な数字が出ているので、大森地区・高山地区をどのような環境にするのか、他の委員からも意見をいただいた方がいいと感じた。</p>
縄課長	<p>現在の施設は、子どもの数が多かったときに建てられた施設であり、今の計算だと過剰な面積になる。</p> <p>適切な規模で新築して維持管理していく方が将来的にはコストダウンにつながるという意見もあると思うが、大田小学校の建替に着手している中で他の校舎の整備をしていくとなると財政負担が一時的に大きくなるので厳しい。できるだけ費用を抑えていくのであれば、今ある施設を有効活用し、また、これからの教育に沿った形で改修をし、当面の間は使っていく方が適切ではないかと考える。</p>
委員長	<p>既存施設の有効活用について現時点で想定される具体案は、①第三中学校を小学校仕様にして使うという考え方、②大森小学校の耐震化し有効活用をしていくという考え方があり、先ほどの委員からの意見で③新築という意見をいただいた。他の委員からなにか意見はあるか。</p>
委員	<p>既存施設の有効活用の観点は重要だと思っている。ただ、「あるから活かす」という観点だけでは、使われない部分をどうするのか、それも含めてどう維持するのかという議論になる。多様な可能性があるからこそ、それぞれのメリット・デメリットをしっかりと並べたうえで議論する必要があると思っている。</p> <p>追加資料4の第3章で重要なのは、「どのような学びを実現したいか、そのためにどのような学び舎を創るか」というビジョンだと思う。大田市ではどういう教育ができるのか、この地域ではどういう学びを実現したいのか、何を活かしていくのか、そういった視点が薄いと感じている。</p> <p>また、文科省が出している計算値は、今の多様な学び方から考えるとそこまで必要ではないと考える。学校以外の施設で教育を受けるケースもある。複合的な学び方のスタイル、可能性を考慮することで、最適策が導きやすくなるのではないだろうか。</p>
縄課長	<p>これからの学びに必要な施設や、どういう教育をしていきたいかということと、今議論している学校をどう配置していくかということは分けて考える必要があると思っている。</p> <p>どういう学びをするから施設を統合するということではなく、子どもの数が激減していく中で、今の学校数が大田市に見合ったものであるのかを考えていかなければならない。令和5年度は144名しか出生がなく、直近6か月で生まれた子どもの数は65名であった。このまま続くと年間130名程度の出生しかない。</p> <p>先ほど地域での説明会の説明で、「一定数の子どもがいる環境で学ばせたい」という保護者からの意見をたくさんいただいた。そのことを踏まえて学校を配置し、配置した学校でどういう学びをしていくかというのは、別で議論すべきだと考えている。</p>
委員	<p>子どもが学ぶべきことは学習指導要領に記載してあり、何をどのように学んでいくか、何ができるようになるかということは学校施設として最も重要なところではないか。その部分と施設を別に考えるというのは私の感覚では考えられない。</p> <p>子どもたちが学ぶために施設のビジョンがあって、そこに対して学ぶ環境を提供することが自治体に求められている。それを切り離してしまったら、学校やこの地域で何を学ぶのかというのが明確にならないのではないかと。</p> <p>地域の未来を背負う子どもたちに環境を整備してどのような教育をするのか、それによってどう成長してもらいたいのかという我々の思いを明確にしておかないとずっと同</p>

	<p>じ議論になってしまう。大田市としてのビジョンを明確にしてほしい。</p> <p>先ほど事務局からは分けてということであったが、この会議ではゴールを目指してどのようにもっていくのかという協議をしたいと思っている。</p>
委員	<p>各地域の説明会などで出た意見を読むと、その地域で作りに上げてきた文化活動等の話題が出ている。学校は、地域住民と子どもたち、保護者が一体となって作ってきた歴史があり、その重みを無視してはならないと思う。</p> <p>第1回検討委員会の時に武田教育長が「21の学校をいくつかに集約する」と言っていたが、私も統合は必要だと思っている。一方で大田市は世界遺産や国立公園など素晴らしいものを持っているので、小規模であってもそれらを活かせる学校を残していくという考え方も必要だと思っている。</p> <p>高山地区・大森地区については、学校新設の意見や既存のものを残すという意見も出ているが、それはあくまでこの地でどのような学びを行うかというイメージのうえで、次の段階で考えることではないだろうか。</p> <p>大規模な学校が子どもの教育にベストという共通理解はなく、小規模でも子どもたちがいきいきと学んでいるという良さを活かさなければならない。そうであるにも関わらず事務局からは数字で線引きをされ、議論が進まなくなる。</p>
武田教育長	<p>最初の検討委員会で「21校を数校にまとめるということ自体は寂しいように聞こえるかもしれないが、統合した学校を大田市の教育財産を活かした、その地域ならではの教育、あるいは時代の流れやスピード感に合った魅力的な学校を作っていくんだといったプラスの発想に転換していきたい。」という話をした。</p> <p>高山エリアは、大田市の教育理念である「わが里を誇り、大田と世界の未来を拓く」に沿う地域であること、とりわけ世界遺産を持つエリアであることが非常に大きな教育要素になると思っており、世界遺産をきっかけに世界とつながることができると考えている。</p> <p>二つ目は、町の人たちが力を合わせて守り継いできた暮らしやまちづくりがあるということ。その中で大きな企業が生まれ、様々な地域から人が集まり、新たな刺激を生んでいる。子どもたちが町ぐるみで育っていくことによって、コミュニティやまちづくりに幼少期から参画していく。社会貢献へのノウハウを知らず知らずに学べるということ、それはいずれ大田市の未来を支えていく子どもたちの大きな要素になると思っている。</p> <p>また、祖式・水上・大代エリアにおいては、全国の公立中学校としては珍しい焼き物の窯がある。その地にある材料を利用した瓦産業や宮大工などのモノづくりが残っていて、それを教育の中に取り入れ、活かしてきた。</p> <p>さらに、田植えばやしなどのお祭りや文化、大江高山に生きる希少動植物などを扱った学習も学校の中では取り入れている。</p> <p>高山小学校・大森小学校は1校に統合するが、高山のエリアにある資源を活かした大田市ならではの教育を進められる学校を作っていきたいと思っている。</p>
委員長	<p>大田市の実施計画案としては、高山エリアの学校を1校に集約するということが記載されている。集約の仕方については、既存施設の有効活用を念頭に今後地元と協議していくことが示されており、有効活用の手段は、事務局から説明のあったところである。</p> <p>この記載案について委員会です承したということによろしいか。</p>
委員	<p>内容としては構わないと思う。ただ、大森小学校の耐震性がないことについて、中学校の目標年度を教育委員会としてどのように考えているのか、ある程度示すことが必要だと思う。</p> <p>例えば、高山小学校と大森小学校を令和17年ごろに統合して第三中学校に移るとな</p>

	れば、あまりにも施設が大きすぎるので、段階的にロードマップを示した方がいいと感じた。
縄課長	<p>前々回の第三中学校についての協議において、統合年度については遅くとも令和11年度とし、今年度中に決めていくことでご理解をいただいたと思っている。</p> <p>既存設備の有効活用について、第三中学校を活用するというのであれば、決定がなされてからある程度の見込みが立つことになる。</p> <p>一方で、大森小学校の耐震性がないということは重々承知をしており、そこにいつまで通わせるのかという地元からの意見をいただくこともある。</p> <p>今年度中に中学校の統合年度を纏めながら、改めて小学校の集約年度についても地元と議論してから見極めていきたい。</p> <p>具体的なロードマップを示すことはできないが、できるだけ速やかに示していきたいと考えている。</p>
委員	<p>小学校と中学校が一緒でも十分な面積があるので、安全性も考慮したうえで小中一貫校のような柔軟な考え方もできるのではないかと。また、面積的に余裕があるのであれば、小学校と併用という形でなにかできないだろうか。</p> <p>また、遅くとも令和11年度には統合するというのであれば、今年度中にどうするか決めていくのでは遅いという印象を受ける。</p>
縄課長	<p>施設の関係で言うと、第三中学校の面積は広く、児童数・教員数からみても共用できる面積はあると思う。一方で、使うとなれば改修が必要となり、それがどのタイミングで完了するかによっては統合年度が変わるかもしれないので、そういったことを念頭に置いて考えていきたい。</p>
委員	改修がそんなに必要なのか。
縄課長	<p>中学校の仕様なので、水道一つとっても小学校低学年の子どもが使うには改修が必要となる。位置の付替えなのか、前に台を置くのか、そういうことを一つ一つ検証していかなければいけない。</p>
委員	<p>事務局からは高山小学校を残すということをやっているとされているが、前の計画では大森小学校を建て替えるという予定だった。その計画がダメになったのか。私としては高山小学校でなく、大森小学校を新たに作った方がよいと思っている。特認校としての位置づけで高山と大森の子どもだけが通学するのではなく、市内の子どもが希望すれば通えるというもの。事務局が言う高山小学校の意見には賛成しかねる。</p>
委員長	<p>資料の内容を一度確認していただきたいので記載案をご覧ください。先ほど委員から「スピード感を持ったスケジュールを立てるような対応をしてほしい」という意見があったが、資料には「一校に集約する」ということが記載されている。</p> <p>また、「既存施設の有効活用を念頭に地元と協議に入る」という部分については、この既存施設の有効活用に何が含まれるのか改めて確認をしたいので、事務局から説明をお願いします。</p>
縄課長	<p>既存施設の有効活用については、第三中学校の状態が良いため活用できないかということを考えている。また、大森小学校を改修し活用する方法もあり、町にある様々な資源を使っていく方法もある。先ほど委員が言われたとおり、第三中学校の統合までの間、小中併設あるいは小中一貫も考えられる。これらを踏まえ、地元と協議させていただき、中学校の統合年度の議論と併せて小学校の集約年度も地元と協議できればと考えている。高山小学校に集約するというのではないので、ご理解いただきたい。</p>
委員長	高山小学校・大森小学校について実施計画に記載することを検討委員会として了承してよろしいか。

委員	(はい)
委員長	それでは、この場で了承したとする。
(2)「第一中学校」及び「第一中学校区の小学校」について(説明：縄課長)	
議事に係る質疑応答	
発言者	内 容
委員	<p>第一中学校では、新設ということで場所から検討が必要ということだが、追加資料の「新しい時代の学びを実現する学校施設」というのは目指していくのか。</p> <p>また、「共創」に関して、地域の公共施設との連携などがうたわれているが、新たに作っていく時に様々な機能を入れた形で魅力のある学びを提供するのか。</p> <p>さらに魅力を上げるために、教育施設と公共施設とを融合した新たなサービススタイルの提供や、学びの環境をどう考えているのか。</p> <p>このことは第二中学校でも感じていて、第二中学校近くにはスポーツ施設があり、将来のクラブ活動などを考えたときに、地域との連携などが重要になると感じている。</p> <p>学校だけの再編や新設だけにとどまるのか、もう少し踏み込んで地域との連携などを考えるのか。</p>
森部長	<p>第一中学校・第二中学校の建替えをする時期には、市内の他の施設も経年劣化していることが想定される。学校の建替えの時期が決まった際は、他の機能を含んだ学校とするのか検討は進めていきたい。ただ、それには費用の話がついて回るので、やむを得ず学校機能だけになるかもしれないし、そのことについては庁内全体で協議していきたい。</p>
委員	<p>教育施設だけを考えると、そのための資金調達あるいは補助金の活用ということになるが、大田市庁舎のようにPFIやPPPなど民間企業の活力を使うという考え方がある。山陰でも学校施設としてプールを維持せずに、地域のプールを使う事例もあるので、学びに必要な環境を考えていくうえでは、いろいろな角度での検討が必要だと思う。</p> <p>特に体育館にクーラーを設置しているが、そうした費用を学校だけで捻出することは難しいと思うので、いろんな形で使うことを想定しながら維持管理に必要な費用を考えていかなければならないと考えている。</p> <p>ぜひこういった視点を取り入れながら、大田として魅力ある教育施設とはどういうものか考えていただきたい。</p>
委員	<p>素案では、第一中学校・第二中学校を統合する案と、第一中学校・第二中学校を設置したままにする案があったが、今回の記載を見ると「第一中学校・第二中学校は当面の間設置する」と記載されているので統合しないということなのか。それとも、「ただし」と続くことから、統合を含めて考えるということか。</p>
縄課長	<p>第一中学校・第二中学校はそれぞれ当面の間は設置するという理解いただきたい。ただ、市全体で出生数が減少しており、今年度の出生数が130人～150人だとすると、3学年で390人程度ということになる。これは今の第一中学校の生徒数とほぼ同数であることを考えると、両校とも当面の間は設置するが、中学校の維持が難しくなってきたら、その過程の中で統合のことを改めて議論する必要があると考えている。</p>
委員	<p>当面の間設置するのであれば校舎に手を加えないといけないと思うので、そこからさらに統合するとなると難しいのではないかと感じた。今の時点で但し書は必要だろうか。</p>
縄課長	<p>第一中学校・第二中学校を設置するとして、計画年度の数年後にはまた検討に入らなければならないケースが想定される。その際に速やかに検討に入ることができるようにこの一文を加えた。</p>
委員長	<p>特段意見がないようなので、「第一中学校」及び「第一中学校区の小学校」について実施計画に記載することを検討委員会として了承してよろしいか。</p>

委員	(はい)
委員長	それでは、この場で了承したとする。
(3)「第二中学校」及び「第二中学校区の小学校」について(説明：縄課長)	
議事に係る質疑応答	
発言者	内 容
委員	小中一貫校と義務教育学校の違いを教えてください。
縄課長	<p>第1回検討委員会で配布した資料に記載してあるので、その時の資料を読み上げると、義務教育学校は、「1人の校長のもと一つの教育施設が置かれ、義務教育9年間の学校目標を設定し、9年間の系統性を確保した教育課程を編成実施する学校」である。一貫教育に必要な教育課程上の特例が認められ、柔軟な学年段階の設定が可能である。例えば小学校5年、中学校4年といった設定が可能であり、子どもたちの心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を基礎的なものから一貫して実施することができるのが特徴である。</p> <p>小中一貫校は、「組織上は独立した小学校・中学校が連携して一貫した教育を行う学校」であり、小学校・中学校という基本的な枠組みは残したまま、9年間の学校教育目標を設定し、9年間の系統性を確保した教育課程を編成させていることが特徴である。小学校は小学校、中学校は中学校として設置し、連携しながら9年間の学びをするということである。</p>
委員	小中一貫校の場合は、小学校の建物と中学校の建物は別でもいいのか。
武田教育長	別の建物でも、同じ建物でも大丈夫。
委員	義務教育学校は同じ建物だけか。
武田教育長	同じ建物だけになる。
委員	<p>小中一貫校あるいは義務教育学校についてよくわかったが、どれくらいの規模を想定して計画を考えているのか。</p> <p>第一中学校と第二中学校とでは位置づけが違うと思っており、第二中学校の近くには陸上競技場などの施設があるので、学校の施設としてだけでなく、生涯スポーツ、生涯学習、健康増進といったものを一体とした施設にするような工夫が必要。</p> <p>第二中学校の計画にはいろいろな要素が入っていると感じたので、協議を進めるときは、どういう段階でどう展開するのかある程度方向性やコンセプト、ビジョンを明確にしてもらいたいと思った。</p>
委員長	<p>記載案の修正ではないということだが、私も同じようなことを考えていて、小中一貫校あるいは義務教育学校の9年間で子どもを育てるというコンセプトのもとで統合再編を進めていくというのはよくわかるが、義務教育学校と同じ敷地に施設が必要になるので、どういうロードマップで9年間のカリキュラムを作っていくのか考えないといけない。</p> <p>先に第二中学校を整備した後で義務教育学校等に変更することは難しいことから、記載案の内容ではないが、委員の質問と併せて具体案の確認をさせてもらいたい。</p>
森部長	野球場の状況なども踏まえると、学校を建てる時に新たな土地を探すというのは時間もかかって非常に難しい。今の土地を活用する施設整備が最短で、小学校と中学校を一緒にタイミングで整備する方が工事期間の短縮にもなるので、そういったことを踏まえながら庁内で協議をしていきたいと考えている。
委員	最初は単独だが途中から一体となるように変化が可能な設計にしておくとか、小学校と中学校の連携が取れるようにしていくというのは最初から考えておかないと途中で大きな改修が必要になってしまう。

	コンセプトや将来的なビジョンを盛り込むことが大事で、イメージを持ちながら地域からのいろいろなアイデアを入れ、地元で支えていくということを考えていただきたい。
森部長	以前、委員から「新たな住宅団地ができ、若い世代がそこで家を建てる。そうすると子供が増えて小学校が必要になる。それが何十年か経つと高齢化が進み、小学校を老人福祉施設として活用する。そこまで考えた学校建設がある。」という話を伺った。先々を見据えた活用方法を視野に入れた構造設計を考えていくべきだと思っている。
委員長	特段意見がないようなので、「第二中学校」及び「第二中学校区の小学校」について実施計画に記載することを検討委員会として了承してよろしいか。
委員	(はい)
委員長	それでは、この場で了承したとする。
(4) 温泉津地区及び仁摩地区の小中学校について (説明：縄課長)	
議事に係る質疑応答	
発信者	内 容
委員	大田西中学校・温泉津小学校・仁摩小学校の2、3年後の状況で、校舎の規模としては温泉津小学校の規模で可能だろうか。規模的には義務教育学校にしても十分入るくらいの施設規模だと思うがいかがか。
縄課長	温泉津小学校と仁摩小学校を統合して小学校として利用する場合には、数年後の児童数は収まる。ただし、小中一貫校として同じ施設の中で併設校を作る場合や、義務教育学校として一校にした場合は、温泉津小学校の規模では足りないと思う。
委員	必要な計算値、子どもの数を見ると十分入るように思うが、入らない理由というのはなにかあるのか。
縄課長	施設の内容にもよるが、温泉津小学校は複数学級がない状態で建設されており、小学校6学年の普通教室は確保できるが、中学生が入ると施設規模としてはまちなかなくなる。
委員	各学年が単式で、1クラスを想定して作られている面積の規模か。
縄課長	正式なことはわからないが、1学年に1クラスで作られたものと思う。
委員	全体的な数を見ていくと、将来的に義務教育学校という形で十分な人数になっていると思う。小学校などが将来的に複式学級でないと成り立たない状況になったとき、温泉津小学校は建設年が新しいので、施設への投資をして維持管理していくという考え方はできないだろうか。
縄課長	温泉津・仁摩の小学校の児童数は、令和16年で108名と想定されるが、各学級1クラスとなり、温泉津小学校に収容できる。一方で中学校は、令和16年度で80名程度になるため、各学級1クラスとなり、これも加えると普通教室の数が不足することから、温泉津小学校に収容できない。 併せて、小学校や中学校に必要な学習機能を考えていくと、今の温泉津小学校では全体を収めきることは難しいと思う。 改めて、小中一貫校または義務教育学校になった場合、必要になる施設設備も出てくると思う。そういったことを踏まえると、学校の新設も考えていけないと考えている。もちろん既存施設を活用できるのであれば、それを有効に活用していきたい。
委員	義務教育学校を考えると、特別教室を理科の実験や音楽室といったことに使うためだけの教室としてではなく、ものを作ったり、動かしたりするなど全体的に有効利用することを考える必要がある。新たな学びや学びの環境を考えたときに、適正な規模をいろんな角度で考えないといけない。既存の施設だと無理だという話ではなく、今後どういう学びをどんな方法で進めていくか、あるいは子どもたちの学ぶ意欲をどう高める

	<p>か考えたときに、どのような施設・規模・機能が必要かを考えて整備することが大事だと思う。</p> <p>逆に全体の面積を一つに集約し、使用した方が将来を考えたときにコストが安い新たな空間を作ることができるので、自由で変化のある学びが可能になるのではないかと。</p>
委員	<p>大田西中学校と仁摩小学校は、位置的にとっても近いところにあり、小中一貫校または義務教育学校を作りやすい立地条件である。ただ、温泉津小学校が大田西中学校と一緒にあったときを想定しながら小学校同士の交流をしなければならないと思う。</p>
委員長	<p>終了時間になったので、今回の内容を整理して次回までに資料として配布いただきたい。</p>
(5) その他	
議事に係る質疑応答	
発信者	内 容
委員	<p>以前、教育長から「今ある学校をいくらか集約して魅力ある学校にしていく。学校に行けない子も行けるようになれば」という話があった。そういった全体像を求めるとなると、校区についても考えないといけない。統合した特例校でない学校に通えるようなことを考えているのか。それとも既存の体制のまま統合を進めていこうとしているのか。</p>
武田教育長	<p>校区については、新しい学校・学びができる校区を柔軟に考えていきたいと考えている。ただ、選ばれなかった小さな学校は子どもが減って、教員配置ができないような状況になることから、すぐに対処することはできない。</p> <p>一方で、大きな学校の中で悩む子どもや教員もいることから、そういった子どもたちが小さな学校で、地域としっかりとつながり合って、ゆっくり学ぶことを選べるような形をまず導入しようと思っている。また、山村留学センターの短期・中期の活動を参考に、出席扱いにするような仕組み作りについても検討している。</p> <p>大田市にも学校に行きにくい子どもがたくさんいるので、そういった子たちを救っていくために、校区を柔軟に考えていきたいと思っている。</p>
<p>5. その他（説明：湊橋課長補佐）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●次回開催予定日の確認</li> <li>日時：6月26日（水）</li> <li>場所：島根県立男女共同参画センターあすてらす 3階 研修室1</li> </ul>	
<p>6. 閉会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●教育長挨拶</li> </ul> <p>この検討委員会も8回を迎え、終盤に向かっていていると感じている。加藤委員長におかれては、難しい議事の進行をしていただき、心から感謝申し上げます。</p> <p>本日は高山小学校、大森小学校、そして第一中学校・第二中学校及びその校区の小学校に関する方向性について協議いただいた。また、新たに温泉津小学校、仁摩小学校についても議事を進めていただき、私たちでは考えが及ばなかった意見をいただくことができた。そういった視点を踏まえて、今回審議いただいた内容について地元と一緒に話し合いができればと思っているので、今後ともよろしく願います。</p>	

以上をもって、第8回検討委員会を終了した。